

## 肺がん・縦隔腫瘍に対するロボット手術や 世界初の気管支鏡治療に取り組む

呼吸器外科では、主に肺がんや縦隔腫瘍などに対する外科的治療に取り組んでいます。特に肺がんは死亡者数の最も多いがんですが、早期発見・治療により根治につなげることができます。当科は都内有数の手術実績を有し、近年では低侵襲手術により患者さんへの負担軽減に努めていることもあり、手術を受ける方の12%を80歳以上が占めています。

当科では、2018年9月より、肺がんや縦隔腫瘍に対してダヴィンチという手術支援ロボットを活用しています。3次元の視野と拡大視により、従来の胸腔鏡手術に比べて格段に細かい操作が可能となりました。患者さんの術後疼痛も軽減したように感じられます。ロボット手術は低侵襲のため、術後の在院日数も平均4日ほどで、早期の社会復帰が期待できます。

進行肺がんに対しては、日々進化する薬物療法や放射線治療を組み合わせ、呼吸器内科や放射線科とともに治療にあたっています。またご高齢の方や肺機能が悪く手術が困難な方には、気管支鏡下にレーザー治療を行っています。これは光線力学的治療(PDT)という方法で、従来は中心型早期肺がんに対して行われてきました。今まで治療できなかった末梢肺の小型肺がんに対して、当院が世界で初めて実施しました。

私たちは、他院では治療が困難な心疾患、脳血管疾患などの併存症を有する患者さんにも安全性の高い手術を提供できるのが強みだと考えています。肺がんの撲滅に向けて当院の力を結集させ、患者さんやご家族から満足いただけるような診療を心がけていきます。

肺がん・縦隔腫瘍に対するロボット（ダヴィンチ）を用いた手術



外科医がロボットを操作し、内視鏡、メス、鉗子などを動かして行う内視鏡手術。術者は鮮明な画像を見ながら、精緻な手術が可能。患者の術後疼痛の軽減も期待できる

中心型早期肺がんに対する PDT



治療前

治療後